

琵琶湖のダイナミズムに係わる課題

琵琶湖河川事務所

琵琶湖のダイナミズムに係わる課題

- ・降雨後の急激な水位低下
- ・移行期における急速な水位低下
- ・洪水期(7月頃)の水位変化の今と昔
- ・長期的な水位低下・水位低下の頻発

- ・降雨後の急激な水位低下
- ・移行期における急速な水位低下
- コイ・フナ類については、ほぼ確立
- ・洪水期(7月頃)の水位変化の今と昔
- ・長期的な水位低下・水位低下の頻発
- 水陸移行帯WGで本課題について検討を進めたい

長期的な水位低下・水位低下の頻発

- 淀川水系整備計画 抜粋

○課題

気象条件によっては、夏以降の水利用により必然的に水位が低下する場合がある。これらが魚類等の産卵・生息に影響を与えている恐れがある。

○対策

琵琶湖における水位低下緩和方策の検討

洪水期を迎える前に行う急速な水位低下操作と下流での水利用によって生じる水位低下の長期化を緩和する方策を検討する。

- ①他ダムとの統合運用を含めた瀬田川洗堰の水位操作
- ②関係者と連携した水需要の抑制
- ③琵琶湖からの放流量を補う琵琶湖への流入水量の確保

長期的な水位低下・水位低下の頻発

- ・ 頻発化が予想されるBSL-30cm(制限水位)～BSL-90cm(第1次取水制限)までの水位について、20cmピッチ(BSL-50cm,BSL-70cm,BSL-90cm)の水位で検討を実施したい。
- ・ 要因や影響について既存文献・データ等を整理し、影響を及ぼす事象について**仮説**をたてる。
- ・ 仮説に基づくモニタリングや実験などにより、**実現象を検証**し、具体的な**対応方策**について検討を実施したい。

スケジュール(案)

○3年程度を目処に、具体的対策まで検討を実施する。

平成23年度：要因・影響について整理。琵琶湖及び琵琶湖周辺河川へ水位低下が及ぼす影響について仮説をたてる。
仮説に基づくモニタリング・実験方法を立案する。

→仮説及び仮説に基づくモニタリング・実験方法についての助言・指導を得たい。

平成23～24年：モニタリング・実験、資料収集などにより、仮説の検証を行う。

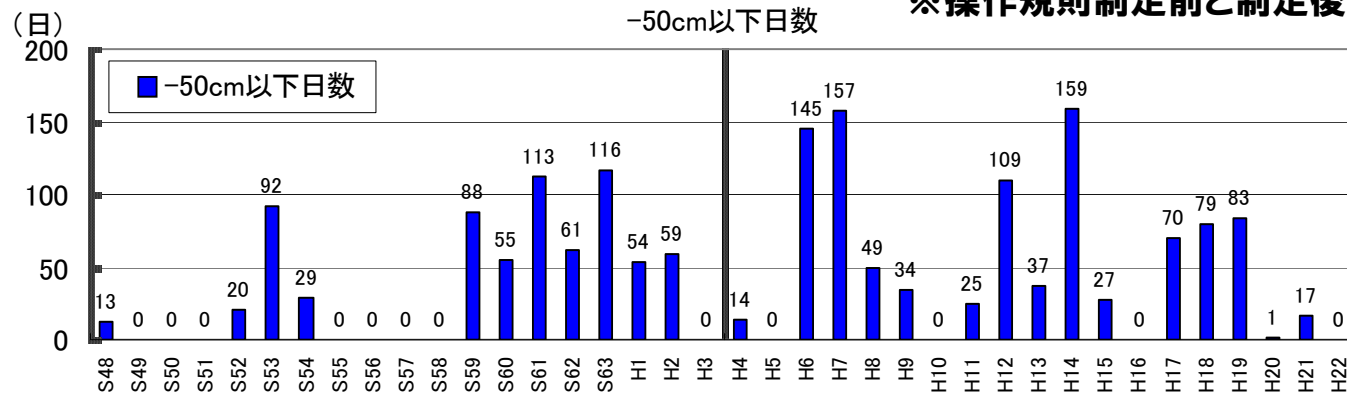
→検証結果についての助言・指導を得たい。

平成24～25年：検証結果より、具体策(対策・効果)の検討を行う。

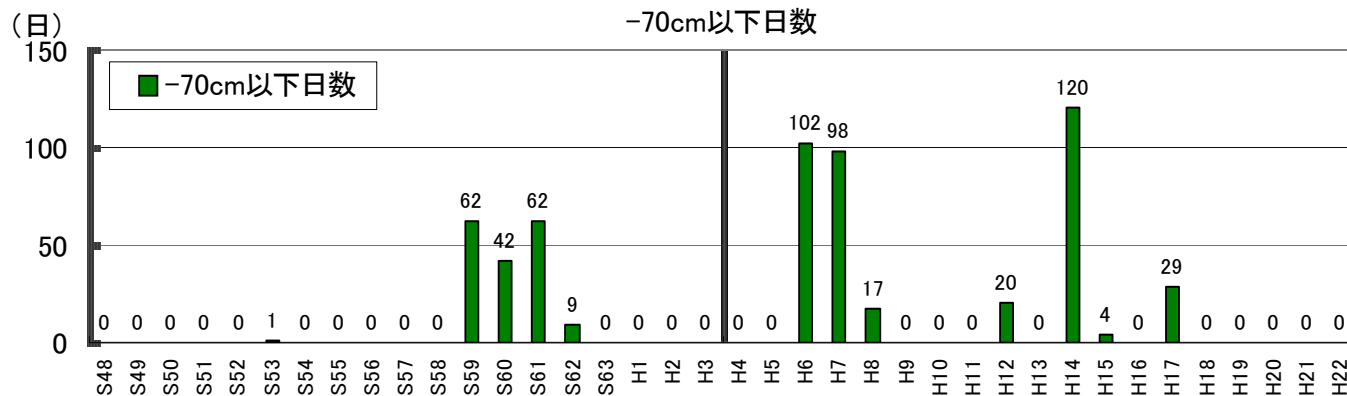
→対策及び対策による効果についての助言・指導を得たい。

参考:水位低下日数

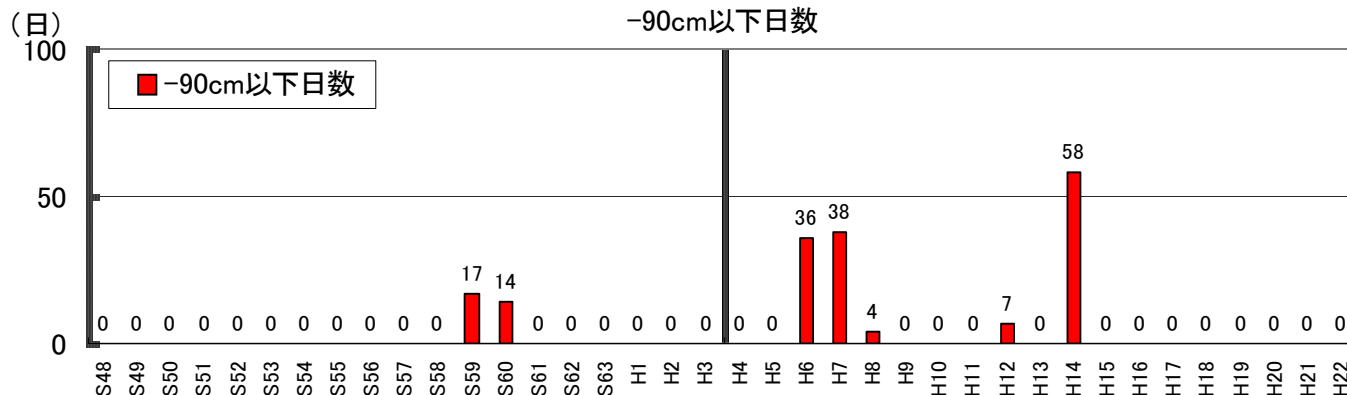
※操作規則制定前と制定後の同年数(各19年)で比較



-50cm以下	瀬田川洗堰操作規則	
	策定前	策定後
発生年数	11	15
発生日数(総日数)	700	1,006



-70cm以下	瀬田川洗堰操作規則	
	策定前	策定後
発生年数	5	7
発生日数(総日数)	176	390



-90cm以下	瀬田川洗堰操作規則	
	策定前	策定後
発生年数	2	5
発生日数(総日数)	31	143